

第7期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 進捗状況

資料No. 3-2

章	節	項	事業等名	R1の取組・成果	R2以降の取組・方向性	関連指標			頁	
						H29	H30	R1 (実績)		
第1章 暮らしを支える体制と支援の充実										
1	1	1	地域包括支援センターの業務	関係機関と連携をとりながら、高齢者に関する各種相談への対応、介護予防事業の紹介のほか、地域の実情に応じた対象者の抽出と実態把握を重点的に行うなど、様々な支援を行いました。 関係機関の連携促進のために地域福祉連携事業、多職種交流会等を開催しました。	関係機関と連携をとりながら、高齢者に関する各種相談への対応、介護予防事業の紹介のほか、地域の実情に応じた対象者の抽出と実態把握を重点的に行うなど、様々な支援を行いました。 関係機関の連携促進のために地域福祉連携事業等を実施する。	総合相談延件数 実態把握延件数 虐待防止相談案件数 成年後見相談延件数 ケアマネ支援延件数 介護予防ケアマネジメント実人数 関係機関連携事業関連件数	39,755 8,563 183 84 574 1,227 10,701	43,423 7,894 228 80 495 1,451 10,542	41,925 7,415 274 79 425 1,315 8,628	31
2	1	1	安心連絡システム	ひとり暮らしの高齢者が安心して生活できるよう継続して実施しました。	利用者が減少しているため、必要な方が事業を利用できるよう、市政だよりのほか、市民が集まる場等を活用して事業を説明し、周知を図っていく。	貸与台数	743	750	708	34
2	2	2	日常生活用具の貸与・給付	在宅寝たきり高齢者等が安心して在宅生活が送れるよう実施しました。	電磁調理器は給付実績が著しく少ないため、令和2年度より給付品目から削除。今後も利用状況の推移を見ながら、必要に応じて給付・貸与の種類や利用者の負担額等見直し等を検討する。	吸引器貸与台数 電磁調理器給付台数	65 2	55 0	55 2	34
2	2	2	車いすの貸与	一時的に車いすが必要となった方に貸出しを行いました。	これからも利用者の要望にできるだけ沿った形の車いすを提供できるよう、大きい・小さい、重い・軽い、自走式・手押式など、さまざまな種類のものを揃え、定期的に新しいものに交換し、借りたいときに借りれるよう十分な数を用意して、今後も事業を継続していく。	貸与台数	274	233	186	35
2	3	3	養護老人ホーム短期入所	主として高齢者虐待の緊急的な入所対応として、一時的に自宅での生活が困難になった人が、短期入所できるよう実施しました。	高齢者虐待等に対応するシェルター施設として、次の分離先を確保したり、成年後見を申し立てするための役割を担うことから、緊急時の対応ができるように事業継続していく。	延入所日数	536	290	341	35

章	節	項	事業等名	R1の取組・成果	R2以降の取組・方向性	関連指標			頁	
						H29	H30	R1 (実績)		
		2	4 高齢者の権利擁護及び財産等の保全・活用	長岡市社会福祉協議会の権利擁護支援課は、法人後見の実施、成年後見制度等に関する相談窓口の設置、広報・啓発等に取り組んだ。また、関係機関と連携をとりながら、高齢者虐待防止の支援、成年後見制度の利用促進、消費者被害防止の啓発に取り組んだ。	長岡市社会福祉協議会の権利擁護支援課は、法人後見の実施、成年後見制度等に関する相談窓口の設置、広報・啓発等に取り組む。また、関係機関と連携をとりながら、高齢者虐待防止の支援、成年後見制度の利用促進、消費者被害防止の啓発に取り組む。	-	-	-	-	36
		3	2 在宅介護者への支援の充実	在宅介護者を応援するため、在宅で介護を行う同居家族に支援金を支給しました。在宅介護者技術の向上・情報交換等研修会を行いました。	継続して、在宅で介護を行う同居家族に支援金を支給する。介護研修会は、充実したものになるよう内容を検討して実施する。	介護者支援金支給決定者数	5,601	5,739	5,675	40
						介護研修会実施回数	22	14	14	
						介護研修会参加者数	299	238	235	
		4	1 生活援助員(ライフサポートアドバイザー)派遣	高齢者が自立した在宅生活ができるよう、対象世帯に生活援助員を派遣し、入居者を支援しました。	引き続き、生活援助員を派遣する。	対象世帯数	60	60	60	41
						生活援助員数	3	3	3	
		4	2 高齢者住宅改造費補助	介護保険制度の住宅改修費への上乗せや、市独自の住宅改造項目への補助によって在宅高齢者等の生活環境が安全で安心となるよう、支援を行った。	介護保険制度の住宅改修費への上乗せや、市独自の住宅改造項目への補助によって在宅高齢者等の日常生活がより安全・安心となり、身体状況の維持・改善ができるよう、引き続き支援していく。	利用者数	33	44	52	41
		4	3 ケアハウス	ケアハウスに対する積極的かつ緊急的な整備要望はないため、現状を維持しました。	ケアハウスに対する積極的かつ緊急的な整備要望はないため、引き続き、現状維持とする。	箇所数累計	8	8	8	42
						定員	271	271	271	
		4	4 養護老人ホーム	入所者に対し、適切な措置を行った。	引き続き、入所者が安心して生活できるように適切に運営する。	箇所数累計	1	1	1	42
						定員	150	150	150	

章	節	項	事業等名	R1の取組・成果	R2以降の取組・方向性	関連指標			頁		
						H29	H30	R1 (実績)			
		4	5	有料老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅	サービス付き高齢者向け住宅1か所26名が開設された。	引き続き、関係機関と調整を図りながら整備状況の確認を行う。	資料No.3-3 P10参照			43	
		4	6	生活支援ハウス	低所得者層の単身者等に住まいを提供できることから、現状を維持しました。	低所得者層の単身者等に住まいを提供できることから、引き続き、現状を維持する。	箇所数累計	2	2	2	45
						定員	24	24	24		
		5	1	在宅医療と介護等の連携に向けた顔の見える関係づくり	地域包括ケア推進協議会や、地域別の多職種交流会、多職種での勉強会などを実施し、多職種の顔の見える関係の深化を図りました。	引き続き、地域包括ケア推進協議会や、地域別の多職種交流会、多職種での勉強会などを実施することで、多職種の「顔の見える関係」の深化を図る。	-	-	-	-	46
		5	2	ICT情報連携システム「フェニックスネット」の推進	関係者と連携し、取組を推進しました。PR動画の作成など、登録者の拡大に向けた取組を進めました。	医師会をはじめ関係者と連携し、取組を一層推進する。電子申請による登録手続きの簡素化を図るとともに、ポスターの作成など、登録者の拡大に向けた取組を進める。	-	-	-	-	46
		6	1	関係者の連携による生活支援体制の充実	社会福祉協議会と連携し、関係者ネットワーク会議や地域福祉懇談会、生活支援の担い手養成研修の開催など、地域での生活支援体制の充実に向けた取組を進めました。	引き続き、社会福祉協議会と連携し、関係者ネットワーク会議や地域福祉懇談会の開催など、地域での生活支援体制の充実に向けた取組を進める。	-	-	-	-	47

章	節	項	事業等名	R1の取組・成果	R2以降の取組・方向性	関連指標			頁	
						H29	H30	R1 (実績)		
第2章 認知症施策の推進										
1	2		認知症の理解促進	認知症の基礎知識を学ぶ認知症サポーター養成講座を行っているほか、講師役であるキャラバン・メイトの活動を支援しました。	認知症の基礎知識を学ぶ認知症サポーター養成講座を行うとともに、講師役であるキャラバン・メイトの活動を支援する。	認知症サポーター養成講座受講延人数	2,056	3,039	1,794	48
2	1		認知症の人と家族が交流できる場の充実	身近なりフレッシュの場、相談の場として、オレンジカフェを市内15か所で運営しました。	引き続き、身近なりフレッシュの場、相談の場として、オレンジカフェを市内15か所で運営する。	-	-	-	-	50
2	2		家族の介護負担の軽減と外出支援	認知症高齢者を介護する家族の介護負担を軽減するため、「やすらぎ支援員」による訪問見守り事業を行いました。	事業の周知を図るとともに、シルバー人材センターと連携して支所地域の支援員を養成し、サービスの提供体制を整備していく。	やすらぎ支援員利用実人数	38	47	42	50
3	-		認知症の予防と早期対応の推進	認知症予防に特化した4回コースの継続教室や地域での予防知識の普及を目的とした単発講座を実施しました。タッチパネルを使った「脳の健康チェック」や簡易チェックサイトのほか、認知症初期集中支援チームの活動を行いました。	参加者の予防習慣の定着に向けて、教室や講座の内容の充実を図る。タッチパネルを使った「脳の健康チェック」や簡易チェックサイトのほか、認知症初期集中支援チームの活動を継続する。	-	-	-	-	52

章	節	項	事業等名	R1の取組・成果	R2以降の取組・方向性	関連指標			頁	
						H29	H30	R1 (実績)		
第3章 持続可能な介護保険制度の推進と適正な運営										
	2	-	介護保険事業費等の見込み	計画値に対し、標準給付費で94.5%の実績を見込んでおり、財政的に安定した運営状況で推移している。	第7期中の介護給付費及び利用量の推移やサービス利用意向等を分析し、今年度策定する第8期計画に生かしていく。	資料No.3-3 P11~P17参照			76	
	3	1	介護給付適正化事業の推進	ケアプランチェックで事業者と協働点検を行い、実態に即したサービス提供であるか、福祉用具貸与が適正であるか等を確認し、不適正なサービス提供について是正を求めた。また、住宅改修の現地確認を行い、状況確認や不適正な事例等を確認した。	ケアプランチェックで事業者と協働点検を行い、実態に即したサービス提供であるか、福祉用具貸与が適正であるか等を確認していく。また、独自調査として、国保連が調査対象としないケースを抽出し確認することで、不適正なサービス提供の是正に努める。住宅改修についても、不適正な事例でないか等を確認するため現地確認を行っていく。	要介護認定チェック数	8,125	7,019	7,944	89
						ケアプランの点検数	50	50	50	
						住宅改修等の点検数	4	5	4	
						縦覧点検数	4,549	5,532	3,791	
						医療情報との突合数	268	291	274	
						給付実績の活用	1,402	4,602	1,356	
	3	2	介護相談員の派遣	介護保険制度に精通し、専門的知識を持った介護相談員を施設等に派遣し、介護サービス利用者の疑問や不満等に対応し、あわせてサービスの質的向上を図った。	介護サービス利用者の疑問や不満等に対応するため、今後も介護相談員を施設等に派遣するとともに、あわせてサービスの質的向上を図る。	派遣施設数	190	201	216	90
						相談員数	6	6	6	
	4	-	介護基盤の維持・確保	介護療養型医療施設2か所300名分が介護医療院へ転換整備された。	令和2年度は、小規模多機能型居宅介護2か所36人、看護小規模多機能型居宅介護1か所29人を整備予定であるが、応募が無い状態が続いている。	資料No.3-3 P18参照			95	

章	節	項	事業等名	R1の取組・成果	R2以降の取組・方向性	関連指標			頁
						H29	H30	R1 (実績)	
第4章 はつらつとした暮らしと社会参加の促進									
1	3	スポーツ・レクリエーション活動の推進	各種大会や教室の開催を通じて高齢者がスポーツを行う機会を提供するとともに、高齢者の興味に応じた種目を実施することにより、高齢者同士の交流促進を図ることができた。	各種大会、教室を実施し、高齢者の体力づくり、仲間づくりに積極的に取り組む。参加者が大幅に減少している事業については、内容の見直し等を図る。	高齢者親善ペタンク大会参加者数	中止	77	57	100
					高齢者スポーツ大会参加者数	221	204	140	
					地域交流スポーツ大会参加者数	312	289	306	
					マスターズスポーツ教室参加者数	367	344	301	
1	4	老人クラブ活動の支援	活動支援等を行っているが、解散等により減少する見込みである。	老人クラブの活性化に向けた連合会組織や活動のあり方について、長岡市老人クラブ連合会と協議を継続していく。	クラブ数	258	237	225	101
					会員数	13,292	11,977	11,125	
2	1	シルバー人材センターの充実支援	これまで以上に、会員の就業活動や地域貢献活動などを積極的に紹介し、高齢社会を支えるセンターの役割を、多くの市民にPRした。結果、受注件数は前年度より減少しているが、会員数及び契約金額は増加している。	これまで以上に、会員の就業活動や地域貢献活動などを積極的に紹介し、高齢社会を支えるセンターの役割を、多くの市民にPRしていく必要がある。	会員数	2,925	3,004	3,076	104
					受託件数	15,456	15,487	14,610	
2	2	高年齢者の雇用促進	ハローワーク長岡など関係機関と連携し、求職者の雇用促進や、企業における多様な人材活用、誰もが働きやすい職場環境づくりを推進した。	引き続き、ハローワーク長岡など関連機関と連携し、年齢に関わらず、生涯にわたっていきいきと働き続けられる職場環境の実現に向けた取り組みを推進する。	新規求職件数	1,765	1,768	1,911	105
					有効求職件数	7,191	6,884	7,623	
					有効求人件数	10,514	9,992	7,358	
					有効求人倍率	1.46	1.45	0.97	
					紹介件数	1,573	1,600	1,779	
					紹介率	89.1	90.5	93.1	
					就職件数	440	512	515	
就職率	24.9	29	26.9						

章	節	項	事業等名	R1の取組・成果	R2以降の取組・方向性	関連指標			頁
						H29	H30	R1 (実績)	
第5章 健康づくりと介護予防の強化・推進									
1	1	多世代健康まちづくり事業の推進	コミュニティセンターやタニタカフェ等で講座を実施した。体組成計測定により自分の筋肉量等の状態を把握でき、そのうえで講座を聞くことで、日頃できることを意識づけできた。	引き続き、コミュニティセンター等で講座を実施するほか、さらに運動習慣を習慣化し定着させるための運動講座を市内7か所で実施し、身近なところで介護予防の促進を目指す。	健康くらぶ会員数	2,849	3,225	2,874	106
					地域セミナー実施地域数	16	13	11	
					地域セミナー延参加人数	2,505	2,224	1,812	
1	2	健康診査の充実	継続した各種健診の啓発とともに、保健師の地区活動(訪問等)の中で啓発を図った結果、受診率が微増した。	各種健診の啓発や受診環境整備を図るとともに、未受診者へ通知等による受診勧奨を行い、受診率向上に努める。	資料No.3-3 P19参照			108	
1	2	健康教育の充実	糖尿病、高血圧、がん等の生活習慣病予防を目的にコミセンや関係団体と協力し取り組んだ。	地区の健康課題を住民と共有しながら、糖尿病、高血圧、がん等の生活習慣病予防を目的にコミセンや関係団体と協力し取り組む。	集団健康教育実施回数	506	514	382	109
					集団健康教育参加者数	7,463	9,330	6,244	
1	2	健康相談の充実	健康相談会を開催し、個別の相談に応じることができた。相談内容、本人の希望等の状況によって他部門つなぐことで、個人の心身の健康を支援することができた。	今後も健康相談会を開催し、相談者の個別の相談に応じ、本人の希望や相談内容によって他部門と連携し、心身の健康を支援する。	総合健康相談回数	141	139	101	109
					総合健康相談人数	989	713	636	
					こころの健康相談回数	48	58	49	
					こころの健康相談人数(65歳以上)	22	35	30	
1	2	訪問指導の実施	糖尿病性腎症3期の受診勧奨と保健指導、健診異常値放置者、受療中断者の受診勧奨、特定保健指導の利用勧奨、特定健診の受診勧奨を実施しに生活習慣病の重症化予防に努めた。	生活習慣病の重症化予防を目的に、糖尿病性腎症重症化予防プログラム対象者、健診異常値放置者、治療中断者、特定保健指導対象者及び特定健診未受診者等へ訪問し、受診勧奨、保健指導を実施する。	訪問延人数	1,105	1,681	1,524	110
1	2	はり・きゅう・マッサージ施術費の助成	利用率については、平成30年度と同程度となる見込みである。	当面は現状のまま実施するが、利用状況の推移を見ながら、必要に応じて助成券の交付枚数等について、実態にあわせて検討する。	交付人数	549	547	575	111
					交付枚数	2,196	2,188	2,300	
					利用枚数	1,450	1,431	1,486	
					利用率	66.0	65.4	64.6	
2	1	介護予防・生活支援サービス事業の推進:通所型サービス	介護予防の視点を取り入れながら生活機能の向上がはかれるよう、事業を実施しました。	介護予防の視点を取り入れながら、身体的機能訓練だけでなく、生活機能の向上を図り、生き生きとした生活を送れるよう、事業を継続して行っていく。	介護予防通所サービス利用延人数	4,003	9,133	8,907	112
					くらし元気アップ事業利用実人数	620	650	622	
					短期集中レベルアップ事業利用実人数	44	43	69	
					筋力向上トレーニング事業利用実人数	33	32	34	

章	節	項	事業等名	R1の取組・成果	R2以降の取組・方向性	関連指標			頁	
						H29	H30	R1 (実績)		
2	1	1	介護予防・生活支援サービス事業の推進:訪問型サービス	地域住民やNPO法人等専門職以外の力も借りながら、事業を実施しました。	引き続き事業を行っていくとともに、地域住民やNPO法人等専門職以外の人材が新しい担い手となって高齢者を支える仕組みの構築に取り組んでいく。	介護予防訪問サービス利用延人数	1,675	3,816	3,635	114
						生活サポート事業(委託分)利用実人数	18	82	149	
						生活サポート事業(補助分)実施団体数	3	3	2	
2	2	2	一般介護予防事業の推進	介護予防の知識の普及や取組みのきっかけ作りを目指し、複合的な教室や講座を開催するとともに、地域で介護予防活動を継続できるように立ち上げ支援・活動支援を行いました。	引き続き、介護予防の必要性や方法などの普及を図るとともに、より地域のニーズに合わせた通いの場への活動支援・立ち上げ支援を行っていく。	-	-	-	116	

章	節	項	事業等名	R1の取組・成果	R2以降の取組・方向性	関連指標			頁
						H29	H30	R1 (実績)	
第6章 地域で支え合う体制の構築									
1	4	地域福祉・在宅福祉サービス (ボランティア銀行)	会員へのアンケート、ヒアリングを実施し、持続可能な活動システムのあり方を検討した。 新たな担い手養成講座を開催し、協力者の確保に努めた。	アンケートやヒアリングから得られた結果を基に、適正な料金、預託性の是非、地区相互乗り入れの是非等について検討し、誰もが参加しやすい活動のあり方について方針を決定する。	延利用者数	751	712	635	121
					年間総利用回数	2,531	2,156	2,053	
1	4	福祉送迎サービス	地域で通院に困っている利用会員に、運転会員がボランティアで送迎を提供した。運転会員の交通安全と技術の向上のため、講習会と実技を各1回実施した。	運転会員の安全運転意識を高め、安心・安全なサービスを提供するため、講習会と実技を各1回開催する。持続可能なサービス提供体制を検討する。	延利用者数	3,331	2,612	2,137	121
					年間総利用回数	3,301	2,597	2,136	
1	4	小地域ネットワーク	地域で見守りが必要とされる方に安否確認等の見守り活動を定期的実施した。近隣住民が班を編成することで地域全体で見守る意識が向上している。	引き続き、地域で見守りが必要とされる方を地域全体で見守っていく。事業内容の見直しをすることで、これまで以上に見守りの輪を広げていくよう努める。	対象世帯数	14,539	15,704	16,355	122
					利用世帯数	536	500	637	
1	4	ふれあい型食事サービス	ボランティアを対象にした研修会を年2回実施した。また、ボランティアの拡大に向け広報等で周知に努めた。未実施の1地区が新たに開始し、全地区で事業を展開するようになった。	引き続き、知識拡充や情報交換の場を提供するため、ボランティアを対象とした研修会を開催する。また、ボランティアの拡大に向け広報や地域福祉懇談会等、他の関係機関と連携し、多くの市民の参加に向け周知に努める。	利用者数	2,384	2,386	2,269	123
					年間総食数	71,427	72,421	68,082	
2	1	福祉活動の拠点「社会福祉センターモシア」の活用	ボランティアセンターを中心としたイベント等の開催をとおして、団体の活動紹介や活動体験の場を提供した。	引き続き、ボランティアの積極的な支援と活動スペースの利用促進、福祉相談機能の連携強化を図り、福祉活動の拠点として、さらなる市民活動・交流を支援する。	利用者数	67,555	79,807	80,771	125
3	1	福祉教育の推進	小学3年生を対象とした福祉読本「ともしび」について、平成27年度の全面改訂から、必要な微修正を行い、小学校等に配布した。	引き続き、「ともしび」による福祉教育を推進するとともに、必要に応じて更新・修正を行う。 また、市内全ての小、中、特別支援学校、高等学校及び高等専門学校を福祉協力校に指定し、永続的かつ自主的な福祉教育の充実を図る。	-	-	-	-	126

章	節	項	事業等名	R1の取組・成果	R2以降の取組・方向性	関連指標			頁	
						H29	H30	R1 (実績)		
	3	2	広報・啓発活動の推進	<p>ともしび運動ポスターの巡回展示やリーフレット・ポスターの配布を行うほか、「すこやか・ともしびまつり」を開催するなど、ともしび運動にまつわる幅広い広報・啓発活動を行った。</p>	<p>令和2年度のすこやか・ともしびまつりは新型コロナウイルス感染症の発生に伴い中止となったが、引き続き、ともしび運動ポスターの巡回展示や、リーフレット・ポスターの配布を行う。</p>	すこやかともしびまつり入場者数	21,500	18,500	21,000	127
	3	3	ボランティア活動の促進・支援	<p>社会福祉協議会では、地区社会福祉協議会等と連携し、配食やボランティア銀行などの地域福祉活動を展開した。</p> <p>ボランティアセンターは、専門職員によるきめ細かな相談対応を行ったほか、福祉分野に限らず多分野のボランティア情報の提供に努めるなど支援体制を強化した。</p> <p>市民協働センターでは、市民活動に関する相談794件、助成41件などの支援を行った(R2.3.末現在)。</p>	<p>社会福祉協議会では、地域福祉懇談会など地域住民が主体となって地域課題を検討する体制づくりを引き続き推進する。</p> <p>ボランティアセンターでは、専門職員によるボランティアに関する相談や支援調整を行うとともに、ボランティアに関する様々な情報の収集と発信を行い、誰もがボランティア活動に参加できる機会の拡大に努める。</p> <p>市民協働センターにおいては、引き続き相談窓口や活動経費の助成などの支援を継続するとともに、ボランティアセンターと定期的に情報交換を行って、ボランティアに関する情報の蓄積・充実を図っていく。</p>	-	-	-	-	128

章	節	項	事業等名	R1の取組・成果	R2以降の取組・方向性	関連指標			頁	
						H29	H30	R1 (実績)		
第7章 やさしい生活環境の整備										
1	3		利用しやすい公共交通機関の整備促進	町内会等が設置するバス待合所の整備事業に対し、令和元年度は2件補助金交付し、バス利用者の利便性向上が図られた。	長岡市公共交通移動円滑化設備整備費補助金交付要綱に基づき、引き続きバス事業者が行う低床バスの購入などに対し補助金を交付する。また、長岡市バス待合所設置事業補助金交付要綱に基づき、引き続き町内会等が行うバス待合所の設置に対し補助金を交付する。	バス待合所整備件数	1	0	0	132
						バス待合所整備補助件数	0	2	2	
						低床式バス台数	76	89	94	
2	-		住みやすい住宅・住環境づくり	公営住宅等長寿命化計画に基づき、既設の公営住宅の改修工事を実施した。	公営住宅等長寿命化計画に基づき、既設の公営住宅の改修工事を実施する。	-	-	-	-	134
3	1		災害時の安全確保	自主防災会の結成と活動を支援するとともに、中越市民防災安全大学を開講し、新たに42名を中越市民防災安全士として認定した。また、自主防災会等の訓練に、前年度の実績(75回162名)から大幅に増加した107回242名の中越市民防災安全士を派遣し、地域防災力のさらなる強化を図った。	引き続き、自主防災会の結成と活動を支援するとともに、中越市民防災安全大学を開講し、地域の防災リーダーの育成を図る。また、自主防災会等の訓練へ中越市民防災安全士を積極的に派遣し、さらなる地域防災力の強化を図る。	自主防災会結成率	92.0	91.5	91.4	135
						活動実施率	79.2	79.7	75.5	
						中越市民防災安全士延人数	584	638	680	
3	2		交通安全対策等の推進	警察などの交通安全関係機関・団体と連携し、四季の交通安全運動などを通じて、高齢者に対し反射材等の配付を行った。また、各地域で開催される会合等に出向き、交通安全講話を行った。	引き続き交通安全関係団体と連携し、高齢者の交通安全に関する啓発活動を実施するとともに、高齢ドライバーに対する交通事故防止についての事業を実施していく。	交通事故死者数	8	4	15	136
						うち、高齢者数	8	1	12	
3	3		火災予防運動の推進	昨年度同様に、65歳以上の一人暮らし世帯及び65歳以上のみの世帯に、防火訪問指導し、住宅用火災警報器の設置調査を行った。未設置世帯には、設置指導書を交付し、昨年度よりも設置率の向上が図れた。	R2以降も同世帯に対し、継続して訪問指導及び住宅用火災警報器調査を実施し、未設置世帯には設置指導する。	高齢者世帯 訪問防火指導世帯数	1,605	1,331	1,470	137